

能建会

地域の道路の町医者に

富田社長（ジオ・サーチ）招き勉強会

能代市能代地区の建設会社で組織する「能建会」（能登信一代表幹事）の勉強会は6日、同市海詠坂の能代山本広域交流センターで開かれた。走りながら道路の陥没危険箇所などを調査できる探査車「スケルカー」を開発し、全国の自治体に道路危険度の情報を提供している建設コンサルタント会社「ジオ・サーチ」社長の富田洋氏（60）を講師に迎え、地域の道路インフラをどう維持していくかについて考えた。

富田氏は近年、道路の陥没、橋の抜け落ちといった事故が多発している背景について、高度経済成長期に集中的に造られたものが一気に老朽化を迎えていることに加え、「車の通行量、融雪

剤による塩害、地震・ゲリラ豪雨など、建設時には予想しなかった環境の変化が、単に経年変化ではない劣化、損傷を加速させている」と指摘。同社が昨春秋に実施した調査を基に改修工事が計画

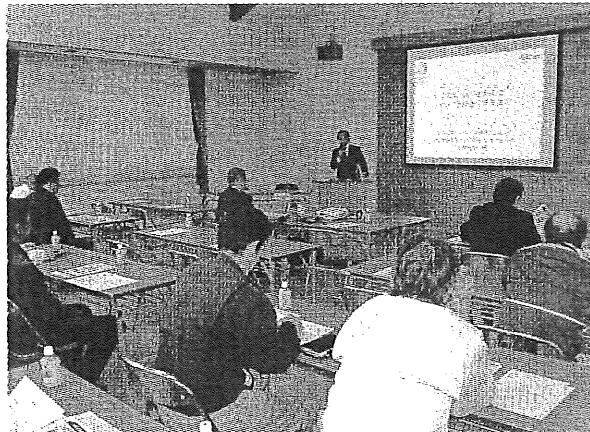
された能代市二ツ井町の国道7号「きみまち大橋」で、今年度の工事実施を待たずに4月に発生した床版の抜け落ち事故を引き合いに、「その劣化も、想像以上に進んでいる」と述べた。

同社の探査車「スケルカー」は、マイクロ波を利用し最高時速60キロで走りながら地中・構造部の内部を透視することができ、一昨年の東日本大震災では1940キロの道路を調査し2561カ所の空洞を発見した。調査の結果、古い下水道管が埋設されている箇所や、道路は市、河川は県といった管理する行政が異なる境目などに陥没や空洞が目立つたとし、「事前防

災・減災には、平常時から陥没防止調査を行い、早期に補修・補強していくことが重要だ」と訴えた。

このほか富田氏は、政権交代後に実施が決定した国の防災・安全交付金

を活用し、全国の自治体で緊急輸送路・避難路を中心に総点検する動きが加速していることも紹介。参加した建設業者には「地域の道路を守るのは『地域の町医者』である皆さん。人の命を最優



ジオ・サーチの富田社長を講師に迎えた能建会の勉強会

先に、今後も技術を高めていってほしい」と呼び掛けた。勉強会には会員、県山本地域振興局、市町の建設行政担当者ら約30人が参加した。